

Citation: Shi Z, Guo C, Awad M. Hyaluronate for temporomandibular joint disorders. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 1. Art. No.: CD002970. DOI: 10.1002/14651858.CD002970.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 14 November 2002

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 顎関節症は、咀嚼システムに関与した様々なタイプの疼痛と機能異常の総称であり、患者のQOLを低下させる。顎関節症に対する関節腔内ヒアルロン酸注射は過去20年近く使用されてきたが、この薬剤の臨床効果は、システマティックレビューの形では集約されていない。

目的: 顎関節症に対するヒアルロン酸単体またはその他の薬物との併用による顎関節注射の効果を評価する。

検索戦略: 徹底的なコンピュータサーチとハンドサーチを行った。Cochrane Oral Health Group Trials Register、Cochrane Library CENTRAL database、PubMed、EMBASE、SIGLE、CBMdisc(中国語)、Chinese Medical Libraryを検索した。口腔保健領域のすべての中国語の専門誌はハンドサーチを行い、学会抄録を調査した。発表言語の制限は付けなかった。

選択基準: 顎関節症患者に対し、ヒアルロン酸の有効性を検討した、単盲検または二重盲検法の、ランダム化比較試験あるいはそれに準ランダム化試験を選択した。

データ収集と分析: 2人のレビューアが個別にデータを抽出し、3人のレビューアが研究の質を個別に評価した。必要と思われる場合には、追加情報を得るために、研究者とコンタクトをとった。

主な結果: 選択基準に適合した7件の試験を同定した。109名の顎関節症患者を含む3件の試験はヒアルロン酸とプラセボとを比較していた。ヒアルロン酸注射は長期間(3か月以上)では臨床症状／顎関節症の全体的な改善(RR=1.71、95%信頼区間: 1.05, 2.77)が二つの試験で認められた。しかしながら、この結論は感度分析では安定してはいなかった。

124人の結果を含む3つの試験ではヒアルロン酸とステロイド注射を比較していた(1つの試験はプラセボ群を有していた)。ヒアルロン酸注射は症状や臨床徴候の改善または全体的な状態に関して、短期間、長期間ともにステロイド注射と差はなかった。

関節内視鏡や関節腔洗浄療法に加えて、ヒアルロン酸投与をした場合としなかった場合の比較では、結果は一定ではなかった。ヒアルロン酸は関節内視鏡検査の結果を向上させる傾向があった。

ヒアルロン酸注射部位の不快症状や疼痛などの軽度で短期間の副作用が報告されていた。QOLに関する報告はみられなかった。

レビューアの結論: 顎関節症患者に対するヒアルロン酸の使用に関しては支持したり、否定したりする一貫したエビデンスはみられない。その有効性に関して、確かな結論を導くためには、今後、質の高いRCTが行われる必要がある。

(翻訳 松香芳三・監訳 湯浅秀道; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。